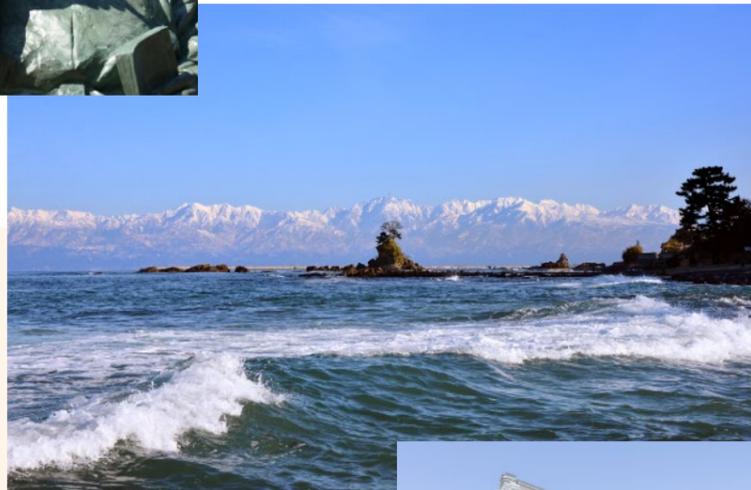


万葉集編纂者・大伴家持
ゆかりの地域「越中国」を訪ねて

令和の 万葉 大茶会

2021 高岡大会
実績報告書



- 主催 万葉大茶会実行委員会2021
- 後援 富山県、高岡市、東京都狛江市、長野県軽井沢町、
鳥取県鳥取市、鳥取市教育委員会、
福岡県太宰府市、宮城県多賀城市、奈良県明日香村
- 協力 アルハイテック株式会社、トヨタモビリティ富山株式会社
- 協賛 株式会社テネックス・ジャパン、株式会社三井E&Sマシナリー、第一実業株式会社
株式会社日本旅行、高岡商工会議所、高岡商工会議所伏木地区議員懇談会
学校法人荒井学園、株式会社開進堂、株式会社YSB、いなほ化工株式会社
茶道裏千家淡交会青年部 第13代北陸信越ブロック長 安カ川 英史子
株式会社アリタ、松尾セイ子、横田建具・木工、株式会社アキデザイン
- 助成 文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、富山県、高岡市
- 企画 一般社団法人 令和・家持ネットワーク協議会

万葉大茶会実行委員会2021高岡大会 事務局
〒933-0804 富山県高岡市問屋町270-1 株式会社アキデザイン
TEL 0766-24-0479 FAX 0766-24-0477



令和3年度日本博イノベーション型プロジェクト

令和3年10月2日(土)

万葉大茶会実行委員会2021

日本博イノベーション型プロジェクト 「令和の万葉大茶会」

～万葉集編纂者とされる大伴家持ゆかりの地域を訪ねて～

新元号「令和」の典拠となった 万葉集「梅花の宴」を再現する

このプロジェクトは、日本最古の歌集たる万葉集、その編纂者とされる「大伴家持」の生涯にクローズアップします。幼少期に父である大伴旅人が赴任した地・大宰府にて、舶来の梅を植え、その梅花を愛でる酒宴を興じた、新元号「令和」の典拠ともなった「梅花の宴」を茶会形式で再現致します。記念すべき第1回は、2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、国の特別名勝・特別史跡に指定されている会場周辺の中央区・浜離宮恩賜庭園で実施しました。

その後は、家持の人生ステージごとに、赴任地である富山県高岡市(2021・秋)→鳥取県鳥取市(2022・冬)→福岡県太宰府市・鹿児島県川内市(2023・春)→宮城県多賀城市(2024・夏)と巡り、最後は関西地域ゆかり(大阪府・京都府木津川市・奈良県明日香村)の大阪万博(2025・没後 1240年)での開催を目指します。特に多賀城市は、2024年に「多賀城創建 1300年」を迎え、東日本大震災からの復興の意味でも象徴的イベントとなります。

万葉集では、約4500首のうち、1700首以上で動植物の歌が詠まれており、まさに3首に1首が、ありのままの自然に心を寄せた歌です。家持は、特に季節を意識して歌を詠んだ歌人であり、全20巻のうち、巻八と巻十は、「四季の景物」をテーマに編纂された巻となっています。また、家持の生きた時代は万葉時代の最後期、天平文化華やかかなりし時代ですが、一方で権力争いも続いた時期です。そのため、万葉集には、北九州の防衛について「防人歌」や東国庶民の「東歌」といった、都びとだけでなく、多くの地方庶民の歌も含まれています。日本全国、その地域ならではの自然観や季節感を感じることができるのも特色です。

こうした家持ゆかりの地域を巡り、和歌の世界観を知ることは、例え現代の生活環境や社会通念が変わろうとも、自然を尊び、人を愛し、死を悼む、といった、直接的で、素朴な日本人の心情に大きな隔たりがないことに改めて気づかされます。

環境問題が深刻なりし今こそ、古より自然を敬い、尊んできた日本人の精神性を問いなおすべきであり、「万葉集」は、それを学ぶ最高の教科書です。

さらに本イベントでは、和歌に優れた英訳詩を付け、世界に発信も試みます。和歌を通し、家持の世界観を知ること、外国の方々も関西や太宰府だけでなく、そこから現存する家持ゆかりの他の地域へ足を運んで頂く新たなゴールデン・ルートの構築となるに違いありません。なお、本イベントに際しては、100年後の子供たちが万葉集に詠まれる日本の四季を理解できるよう、自然環境や気候変動に配慮し、日本の最先端技術の結集である水素燃料電池より電源を調達し、CO2を出さないように配慮します。自然への敬意が、「万葉の時代から令和」へと連綿と紡がれていることも重ねて発信致します。

万葉の心に思いをはせて、 「梅花の宴」を、越中国高岡で再現



「令和」は、日本最古の歌集である万葉集を典拠とし、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味を込めて制定されました。

万葉集の編纂者とされる大伴家持の父である大伴旅人が大宰帥(長官)として赴任していた時、当時めづらしかった梅の花を愛で、32首の歌を詠みあった「梅花の宴」は、まさにうろわしいひとときであったことでしょう。当時、13歳だった家持が、まぶしい瞳で見ていたことは想像にかたくありません。

その家持が成長し、天平18年(746年)に越中守に任ぜられ、越中国に赴任します。29歳の時でした。花を愛でて歌を詠んだ父のように、家持は、越中国の山や海、花や鳥に心を寄せ、多くの歌を詠みます。その数、223首。越中国の自然が、いかに家持の目に美しいものとして映っていたかがわかります。

家持ゆかりの地域をつないで開催される「令和の万葉大茶会」。2021年は、高岡で開催いたします。

家持の心を動かした雄大な風景は、遠い時を経ても変わらず私たちの前にあります。家持が心を踊らせて詠んだ歌の風景を、どうぞご覧ください。

そして、「梅花の宴」を再現するのは、まさに越中国庁があったとされる雲龍山勝興寺の本堂です。家持も、この地で、かつて見た梅花の宴を懐かしく思い起こしていたかもしれません。勝興寺は、23年に及ぶ「平成の大修理」を終えて、栄華を誇ったかつての姿をよみがえらせています。

私たち日本人は、どこにあって自然を感じ、自然とともに生きています。そして、感動せずにはられません。

未来へこの自然を伝えていくために、水素エネルギーの活用も実演し、広く発信していきます。

万葉集編纂者・大伴家持ゆかりの地域 「越中国」を訪ねて

家持、越中国に赴任

大伴旅人の子、家持は、天平18年(746年)6月に越中守に任ぜられ、8月までには着任しました。29歳の時です。
天平勝宝3年(751年)7月に少納言となって帰京するまでの5年間、越中国に在任し、その間、越中の自然や人々の暮らしにふれ、223首の和歌を詠みました。
越中歌壇の歌も含めた337首を、「越中万葉」といいます。

二上山



大伴家持像(二上山)



二上山(ふたがみやま)は、2つの峰をもつ山で東峰は標高274m。
家持が当時暮らしていた国守館から、この山がよく見えたのかもしれない。

玉くしげ 二上山に 鳴く鳥の
声の恋しき 時は来にけり
(卷十七 3987 大伴家持)

立山に 降り置ける雪を
常夏に見れども飽かず
(卷十七 4001 大伴家持)

馬並めて いざ打ち行かな
渋谿の 清き磯廻に 寄する波見に
(卷十七 3954 大伴家持)

渋谿(雨晴海岸)

渋谿は、現在の雨晴海岸。
海越しに立山連峰をのぞむ絶景の地



雲龍山 勝興寺 越中国庁跡



雲龍山 勝興寺(重要文化財)
この境内に、かつての国庁があったと伝わる。
令和3年(2021年)4月、23年の年月をかけた平成の大修理が完了し、かつての輝きがよみがえった。



境内にある「越中国庁址」の碑

高岡市万葉歴史館



家持が政務をとった国庁跡近くの小高い丘にある高岡市万葉歴史館。
『万葉集』を中心テーマに据えた初めての研究施設として平成2年(1990)10月に開館した。



令和2年度から3年度にかけてリニューアル。「万葉体感エリア」では、大伴家持が詠んだ歌と、高岡の自然の美しさを、3方向の大型スクリーンに大迫力のプロジェクションマッピングで映し出す。



「万葉のふるさと高岡」を、未来へつなぐ。

高岡市では、家持が越中赴任中に詠んだ歌や風景を、広く全国に発信するため「万葉のふるさと」事業を展開してきました。万葉集のすべての歌をリレー形式で歌い継ぐ「万葉集全20巻朗唱の会」もそのひとつです。
昭和から平成、そして令和へ。高岡は、これからも万葉の心と歌を大切に発信しつづけていきます。



万葉集全20巻朗唱の会



家持くん

◆ 事業日程

令和3年5月22日(土) 13:00～

万葉大茶会実行委員会2021 第1回全体会議開催(高岡商工ビル)
事業計画、時間行程、収支予算、役員体制、今後の実行委員会の日程について協議・報告

令和3年8月26日(木) 15:00～

FM FUJI「ニホンのナカミ」(DJ:竹田恒泰)に出演し、大会をPR

〈放送日時〉	放送局	放送日時	放送時間	放送種別
・FM FUJI JOCV-FM (78.6MHz)		2021年9月19日(日)	8:30～8:59	OA
・JRT 四国放送 (1269kHz)		2021年9月25日(土)	6:15～6:30	OA
・IBS 茨城放送 JOYF (1197kHz)		2021年9月25日(土)	18:15～18:30	OA
・エフエム立川 (84.4MHz)		2021年9月19日(日)	21:00～21:30	OA
・岐阜放送 JOZF (1431kHz)		2021年9月19日(日)	9:15～9:45	OA
・RNC 西日本放送 JOKF (1449kHz)		2021年9月21日(火)	6:45～7:00	OA
・wbs 和歌山放送 JOVF (1431kHz)		2021年9月26日(日)	5:30～5:45	OA

令和3年10月2日(土)

◆ 「令和の万葉大茶会」 会場:雲龍山 勝興寺

11時30分 「梅花の宴」再現 本堂前
水素生成と水素自動車による電源供給の実演
協力:アルハイテック株式会社、トヨタモビリティ富山株式会社

13時00分 「令和の万葉大茶会」 奥書院「金の間」

◆ 視 察 会場:高岡市伏木、太田

14時10分 高岡市万葉歴史館 リニューアル展示の見学
15時15分 国定公園・国指定名勝 雨晴海岸、道の駅 雨晴、義経岩見学

◆ 基調講演・式典 会場:ホテルニューオータニ高岡 4階 鳳凰の間

16時30分 基調講演 演 題:「脱炭素! 自立分散型エネルギー アルミ水素で地産地消」
講演者:水木 伸明氏(アルハイテック株式会社 代表取締役社長、
博士(工学)、環境カウンセラー(環境省登録))

17時00分 高岡大会式典 開式 オープニングビデオ
主催者代表あいさつ
来賓あいさつ
メッセージ(ビデオレター)
関係各市町村プレゼンテーション
1. 長野県軽井沢町
2. 東京都粕江市(2020年東京大会開催地)
3. 鳥取県鳥取市
4. 福岡県太宰府市
5. 宮城県多賀城市
6. 奈良県明日香村
大会キー伝達式 富山県から鳥取市へ引継ぎ
閉会のあいさつ
閉式

◆ 会場図

雲龍山 勝興寺



本堂
勝興寺は、真宗王国・越中における代表的な寺院で、本堂はじめ大広間、式台など12棟が重要文化財に指定されている。
なかでも本堂は、西本願寺の阿弥陀堂を模して建立されたもので、地方にある本堂としては破格の規模をもつ。本来は鉛葺きであったが、環境に配慮して亜鉛合金板葺きの屋根になっている。



燃料電池自動車「MIRAI」(トヨタ自動車)



唐門には衛士(えじ)を配置(両端)



唐門
京都で建立され、明治時代に勝興寺に移築された。檜皮葺きの建造物は、北陸地方では極めて稀である。



奥書院 金の間 (非公開)
壁と建具に金箔が貼られていることから、「金の間」と呼ばれる。解体時に「御居間」と書かれた墨書が発見された。



大広間
儀式・会合を行う「広間」、住職が来客を迎える「対面所」があり、地方の真宗寺院としては例のない「上段の間」が設けられている。

◆ 令和の万葉大茶会

日時 令和3年10月2日(土)
 会場 雲龍山 勝興寺
 参加者/大会関係者 124人、一般見学者 100人 計 224人

「梅花の宴」再現 本堂前



大宰帥 大伴旅人の邸宅に咲いた白梅の花を、客人たちがそれぞれ歌に詠んだ「梅花の宴」。音響に水素エネルギーを使用し、万葉集巻五に収められた815から846までの32首を、『万葉集全20巻朗唱の会』にいざなう会』のメンバーが万葉衣裳を着て再現しました。

- ◆司会/中川 加津代(フリーアナウンサー)
- ◆解説/川村 ゆかり(フリーアナウンサー)
- ◆大伴旅人/高橋 正樹 (前 高岡市長)
- ◆大伴家持/玉井 晶夫 (「万葉集全20巻朗唱の会」にいざなう会会長)
- ◆歌人(朗唱者)
 - 増川 富雄
 - 金森 一郎
 - 大井 克宏
 - 川端 徹也
 - 内記 志朗
 - 河村 宗明
 - 土代 正治
 - 八田 一弥
 - 土代 智恵子
 - 山田 晶子
- ◆受付・着付スタッフ
 - 津幡 敬子
 - 大窪 慶子
 - 北山 佐代子
 - 麻井 享子
 - 橋森 征子
 - 辻田 孝子



初春の令月にして
 気淑く風和ぎ

「令和の万葉大茶会」 奥書院「金の間」

参加者/大茶会 18人×3席 計 54人
 会場誘導ボランティア/伏木校下自治会連絡協議会、古府校区自治会連絡協議会



水素エネルギーを使用したお茶会を奥書院「金の間」にて開催し、家持ゆかりの関係自治体の代表者等には、万葉衣裳をご着用いただきました。令和の万葉大茶会の運営を担当した「茶道裏千家淡交会高岡支部」が、この日のために裏千家の家元にお茶席に飾る掛け軸を書いていただき、当日参加の皆さんに披露されました。



令和の万葉大茶会



裏千家淡交会高岡支部 在田吉保

馬並めて いざ打ち行かな 洪谿の 清き磯廻に 寄する波見に (巻17・3954 大伴家持)

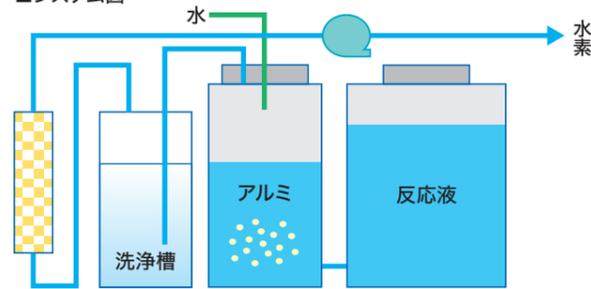
会 記
 薄茶席
 床 坐忘齋御家元筆 溪水山風共清
 花 季のもの
 花入 一重切 銘 乾坤輝 淡々齋箱
 釜 切合 二代 昌春齋造
 結界 時代杉に菊桐透かし
 水指 二上焼 宮林治代造
 薄器 城端塗秋草文平棗 十四代 小原治五右衛門造
 茶杓 淡々齋作 銘 雨晴(澁谿)
 茶碗 絵志野 石黒宗磨造
 替 呉山の月 佐藤助庵造(裏千家老分)
 このつきを可々みにみたててらしあい
 ほゞえみかわす吾と君かも

蓋置 青竹
 建水 木地曲
 薄茶 坐忘齋御家元好 和悦 伊藤園詰
 東子 清磯 こし村百味堂製



高岡市は、古くから高岡銅器や高岡漆器など、ものづくりで栄えたまちであり、そこからアルミニウム産業が発展してきました。高岡市のアルハイテック株式会社が、廃アルミからの水素生成に成功したことを受けて、水素生成と、生み出したクリーンな水素を充填したトヨタ車の「MIRAI」を経て電源供給する実演を行いました。

■システム図



資料提供:アルハイテック株式会社、トヨタモビリティ富山株式会社



富山県立高岡高等学校の協力を得た



燃料電池自動車「MIRAI」(トヨタ自動車)

視察 会場:高岡市伏木、太田

高岡市万葉歴史館リニューアル展示の見学



家持の歌と越中の自然を大型スクリーンで鑑賞



万葉集などについてわかりやすく学べる万葉学習エリア

高岡市万葉歴史館は、『万葉集』を中心テーマに据えた初めての研究施設として平成2年(1990年)10月に開館令和3年(2021年)4月に「常設展示室」が「万葉体感エリア」として、9月に「企画展示室」が「万葉学習エリア」として生まれ変わりました。家持の歌や高岡の自然などを、3方向の大型スクリーンに映し出すプロジェクションマッピングなどを鑑賞しました。

国定公園・国指定名勝 雨晴海岸
道の駅 雨晴、義経岩見学



雨晴海岸は、奇岩と白砂青松が続き、海越しに立山連峰を望む絶景の地で、家持も歌に詠んでいます。また、「義経岩」は、源義経が奥州へ落ち延びる途中、にわか雨の晴れるのを待ったという岩で、「雨晴」の由来となっています。富山湾は、世界で最も美しい湾クラブに加盟しており、平成30年(2018年)にオープンした「道の駅 雨晴」も見学し、高岡が誇る景色を堪能していただきました。



義経岩



道の駅 雨晴

基調講演 会場:ホテルニューオータニ高岡 4階 鳳凰の間

基調講演 演題:「脱炭素! 自立分散型エネルギー アルミ水素で地産地消」
講演者:水木 伸明(アルハイテック株式会社 代表取締役社長、
博士(工学)、環境カウンセラー(環境省登録))



アルハイテック株式会社 代表取締役社長
水木 伸明氏

高岡市で水素活用に取り組む地元企業アルハイテック株式会社の水木伸明社長に、「脱炭素! 自立分散型エネルギー アルミ水素で地産地消」と題して講演していただきました。文化と環境の融合による今後の社会の持続発展に向けて意識を高めました。



経済産業省資源エネルギー庁新エネルギーシステム課長
(併)水素・燃料電池戦略室長
日野 由香里氏

講演後、経済産業省資源エネルギー庁新エネルギーシステム課長(併)水素・燃料電池戦略室長の日野由香里氏に、国の取り組み姿勢等についてお話しをいただきました。

元号「令和」の考案者とされる高志の国文学館館長 中西 進氏による、万葉集一番歌の朗唱映像からスタートしました。

◆オープニング



高志の国文学館館長 中西 進氏(ビデオ放映)

◆来賓挨拶



衆議院議員 橘 慶一郎氏



文化庁次長 杉浦 久弘氏



高岡市長 角田 悠紀氏

◆主催者代表挨拶



万葉大茶会実行委員会2021 会長 金森 一郎



衆議院議員(元環境大臣) 原田 義昭氏(ビデオメッセージ)



富山県知事 新田 八朗氏

◆祝電等披露



東京都知事 小池 百合子氏 (ビデオメッセージ)
('令和の万葉大茶会2020東京大会'開催地)

◆家持ゆかりの関係自治体PR

大伴家持ゆかりの自治体が、それぞれの歴史や文化などをプレゼンテーションしました。



長野県軽井沢町
町長 藤巻 進氏



東京都狛江市
市長 松原 俊雄氏
(ビデオメッセージ)



鳥取県鳥取市
市長 深澤 義彦氏



福岡県太宰府市
市長 楠田 大蔵氏
代理 観光経済部長 東谷 正文氏



宮城県多賀城市
市長 深谷 晃祐氏



奈良県明日香村
村長 森川 裕一氏
代理 参事 作田 亜希子氏

◆大会キー伝達式

奈良時代に墨で文字を書き記していた「木簡」の形に、咲き誇る白梅を描いたもので、令和の万葉大茶会の次回開催地に伝達されます。
高岡市では、国の伝統的工芸品に指定されている「高岡漆器」で再製作したものを、次回開催地の鳥取市に伝達しました。



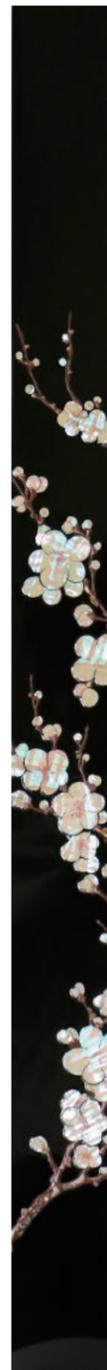
角田悠紀高岡市長(右)から新田八朗富山県知事へ



新田八朗富山県知事(右)から深澤義彦鳥取市長へ手渡されました

大会キー

高岡漆器(青貝塗)
本漆・螺鈿・錆絵
縦60cm×横4.5cm
厚さ1.5cm
表面・側面/白梅の図
裏面/大伴家持の歌
詳細は、P18をご覧ください。



◆これまでの経緯とさらに未来へ



令和2年(2020年)、「令和の万葉大茶会 東京大会」が開催され、小池百合子東京都知事より、高岡市長(当時)に大会キーが伝達されました。



令和3年(2021年)
「令和の万葉大茶会
2021高岡大会」



「令和の万葉大茶会 2021高岡大会」の式典において、大会キーが鳥取市長へ伝達されました。

令和4年(2022年)
鳥取県鳥取市
万葉集最後の歌を
詠んだ地



2022(令和4)年には、鳥取県鳥取市で開催予定。



大会キーを納める桐箱も製作。高岡の思いとともに、各ゆかりの地をめぐる、2025年へ。

大伴家持ゆかりの地域を、四季のラインでつなぎ、未来へ。

家持の人生ステージごとに赴任地を巡り、最後は関西地域ゆかりの大阪万博での開催をめざし、大会キーも2025年に向けて伝達されていきます。



ポスター B2



「つくる、伝える、時を超える。」
 万葉集に込めた家持の思いと、高岡漆器の技でつくった大会キーへの思いを重ね合わせて。
 2021高岡大会のメインカラーは、大伴家持が越中国に在任中に昇進した官位である「五位」の色「浅緋」をイメージしたものです。また、制作物全体を通して、高岡漆器で再製作した木筒(大会キー)を、シンボルアイテムとして使用しています。白梅を螺鈿で表現した美しい木筒は、高岡を発信するビジュアルとして、好評をいただきました。
 高岡大会オリジナルのキャッチコピー「つくる、伝える、時を超える。」は、家持が編纂した万葉集が現在に受け継がれていること、そして、大会キーが家持ゆかりの地を伝達されていくことを表現したものです。

パンフレット A4 8P 両観音開



表紙

見開き



中面全体

チラシ A4 両面



表面

裏面

伝統的工芸品
高岡漆器

高岡は、1609(慶長14)年、加賀前田家2代当主前田利長によって開かれた。高岡漆器は、利長の産業振興策として始まり、「彫刻塗」「勇助塗」「青貝塗」という多彩な技法を確立しています。

2020年の第5回全国漆器展 常陸国体賞として「内閣府大臣賞」を受賞

漆黒に虹色の輝きで描き出す
高岡漆器の特長は、漆の上に細工を施す「加飾」の技法にすぐれていることです。なかでも、螺鈿(らでん)を洗練させた「青貝塗」は、ひときわ美しい輝きで見る人を魅了します。螺鈿は、虹色の輝きを持つ貝殻の細片を組み合わせて絵柄を描く技法ですが、高岡漆器の「青貝塗」は、0.08ミリという透けて見えるほど薄い貝を用います。

令和の万葉大茶会

木簡ができるまで

- 1 木地には、上質のイチョウを使用。
- 2 下地作業。生漆を木に塗り込む。乾燥後に、研ぐ→塗るを4回繰り返す。
- 3 螺鈿工程。模様の範囲に漆を塗り、置いたがって青貝を貼り付ける。
- 4 乾燥後、螺鈿部分を研ぎ出す。炭などで研磨していく繊細な作業。
- 5 研ぎ出した後、透明な漆を塗り、全体を磨き仕上げする。
- 6 生漆に砥(と)のこを選べた錆漆(さびうるし)で、枝の部分を描いて完成。

表紙面

令和の万葉大茶会
木簡製作について

木地 / 素材: イチョウ
藤島木材工業 藤島 一貴 (伝統工芸士)

塗り / 素材: 本漆
さいとう漆工房 齋藤 慎二 (伝統工芸士)

螺鈿・錆塗 / 素材: アワビ貝・本漆
(有)武蔵川工房
武蔵川 義明 (伝統工芸士)

監修 / (株)榮田漆器店
高岡市デザイン・工芸センター

製作 / 伝統工芸高岡漆器協同組合

制作 / 万葉大茶会実行委員会2021

お問い合わせ
伝統工芸高岡漆器協同組合
〒933-0029 富山県高岡市御旅町101番地
御旅屋セリオ2階
TEL.(0766)22-2097 FAX.(0766)26-9080
E-mail:shikki@beach.ocn.ne.jp

つくる、伝える、時を超える。

「万葉の心」をつなぐ大会キーとして
万葉集の編纂者・大伴家持ゆかりの地域をつなぎ、令和の元号の典拠となった「梅花の宴」を再現する「令和の万葉大茶会」。

その皮切りとして、2020年に首都・東京の「浜離宮恩賜公園」で開催され、この時、小池百合子東京都知事から2021年開催の富山県高岡市の市長に、大茶会を伝達する木簡が手渡されました。

2021年、家持ゆかりの地域をつなぐ始まりの地となった高岡市は、都知事より伝達された木簡の模様をそのままに、藩政時代より受け継ぐ「高岡漆器」の技で、螺鈿(らでん)を施した木簡を製作。この木簡は、2022年鳥取県鳥取市、2023年福岡県太宰府市、2024年宮城県多賀城市、そして2025年には奈良県高市郡明日香村、大阪・関西万博へと伝達されていくことになっています。

木簡裏面
筑紫の大宰の時の春苑梅歌に追和する歌一首
春のうちの 楽しき終へは
梅の花 手折り招きつつ 遊ぶにあるべし
巻十九 4174 大伴家持

「梅花の宴」から二十一年後の七五〇年、家持が越中の地で大宰府の宴で詠まれた歌に追和した歌である。

木簡表面
高岡漆器のしおり

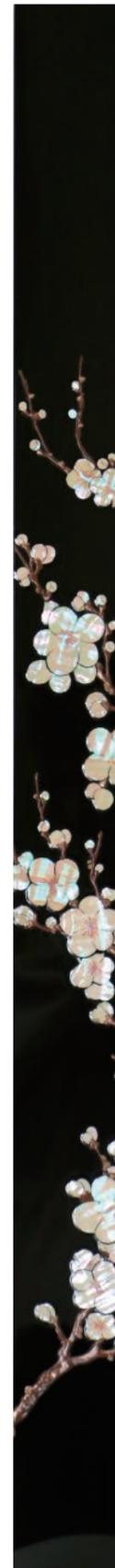
中面



閉じた状態

開いた状態

高岡漆器で製作した木簡(大会キー)について、詳しく紹介するために制作したしおり。
高岡漆器のはじまりと特長、今回の木簡の製作工程、製作に関わった人々などを掲載した。
螺鈿の白梅を少し見せる折りとなっている。
このしおりも大会キーの木箱に入れて、次の開催都市に引き渡している。



表面

「梅花の宴」で歌われた白梅を螺鈿で表現しています。

高岡漆器は、加賀前田家2代当主 前田利長が産業振興策として奨励したことに始まり、「彫刻塗」「勇助塗」「青貝塗」という多彩な技法を確立しています。

その特長は、漆の上に細工を施す「加飾」の技法にすぐれていることで、なかでも、螺鈿(らでん)を洗練させた「青貝塗」は、ひときわ美しい輝きで見る人を魅了します。



漆を塗り乾燥した後、螺鈿を研ぎ出す

螺鈿は、貝殻の細片を組み合わせて絵柄を描く技法ですが、高岡漆器の「青貝塗」は、0.08ミリという透けて見えるほど薄い貝を用います。枝の部分は、生漆に砥の粉をまぜた錆漆(さびうるし)を使って描いています。



側面にも、白梅と枝が装飾されている

「梅花の宴」から二十一年後の七五〇年、家持が越中の地で大宰府の宴で詠まれた歌に追和した歌である。



木簡裏面

筑紫の大宰の時の春苑梅歌に追和する歌一首

春のうちの 楽しき終へは

梅の花 手折り招きつつ 遊ぶにあるべし

巻十九 4174 大伴家持

裏面

◆制作物

当日配布用チラシ A4 両面



当日配布用協賛広告チラシ A4 片面



「梅花の宴」サイン・セッティング



大茶会用白梅の絵

封筒 角2



サイン



グッズ・記念品



梅の花をデザインした高岡の錫(すず)100% 鋳物クラフト「咲くすず」



富山観光しおり



日本博ペーパーバッグ



日本博グッズ



全国で5つしかない国の重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」のペーパークラフト



令和2年11月5日掲載 北日本新聞



令和3年10月3日掲載 読売新聞



令和2年11月8日掲載 富山新聞

令和3年10月17日掲載 北日本新聞



令和3年10月3日掲載 北日本新聞



令和3年10月3日掲載 富山新聞

令和3年10月26日掲載 富山新聞